

令和6年度 バウム 事業報告書

1 総括

令和6年度は年度前半に主任を含め2名の職員の退職があったことから、職員の業務分掌や指揮命令系統の見直しを余儀なくされた年であった。一時的に情報の共有や指揮命令に混乱が生じることがあったが、経験年数が長い職員が多いことや後任の職員の育成も順調に進んだことで、活動には大きな影響は見られず、安定して事業を継続することができた。利用者の自己肯定感を大切にしながら、福祉就労と一般就労準備支援に取り組むという基本方針は継続し、多くの利用者は概ね安定して過ごせていると感じている。年度内に就労移行支援の利用を希望した利用者はいなかったが、次年度の利用に向けて2名の利用者が準備を始めた。課題は主な作業収入であるダイレクトメールの受注量減少（発注者側の業務の都合）への対策と職員の内部牽制や指導の強化である。6年度はダイレクトメール以外の軽作業の受注を増やし、結果的に作業収入は前年度比で増加となったが、今後安定受注に向けた取り組みが必要である。また、職員間のチームワークは良く取れているが、お互いの支援について活発に意見を言い合うことは不十分であり、職員指導における現場でのリーダー的存在の育成が必要となっている。

2 事業概要

1) 施設名	バウム
2) 事業種別	就労継続支援B型
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号
4) 経営主体	社会福祉法人 未来
5) 利用定員	20名
6) 利用現員	26名（令和7年3月31日現在）
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日
9) 職員	管理者 1名
	サービス管理責任者 1名
	生活支援員 2名（常勤換算 1.8）
	職業指導員 3名（常勤換算 1.9）
	目標工賃達成指導員 1名（常勤換算 1.0）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。
- 2) 自力での通所ができる。(公共交通機関の利用が可能である。)
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。
- 5) 身辺自立している。

6 実施事業（活動内容）

1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業（公園清掃、アパート清掃）
- (3) 資源回収作業
- (4) その他受注作業

2) 行事

- | | |
|-----|---------------|
| 4月 | マジックショー観覧 |
| 10月 | 一泊旅行（栃木県・茨城県） |
| 12月 | 運動会 |

7 日 課

- | | |
|-------|--------|
| 8：45 | 体操・朝礼 |
| 9：00 | 作業 |
| 10：00 | 休憩 |
| 10：05 | 作業 |
| 11：00 | 休憩 |
| 11：05 | 作業 |
| 12：00 | 昼食・休憩 |
| 13：00 | 作業 |
| 14：00 | 休憩 |
| 14：05 | 作業 |
| 15：00 | 休憩 |
| 15：05 | 作業 |
| 16：00 | 休憩 |
| 16：05 | 作業・清掃 |
| 16：55 | 片づけ・終礼 |
| 17：00 | 退勤 |

※ 毎週水曜日は16：00で終了（事業所別職員会議の為）

※ 毎月第2火曜日は12：00で終了（合同職員会議の為）

8 重点課題・目標

1) 活動

- (1) 利用者一人ひとりにあった福祉就労を通じての社会参加の促進
 - ① 通所の安定化
面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安的になった際は話を聴く、助言を行うなど個々の利用者の状況に合わせた対応を行った。全般的に通所は安定しており、概ね7

3%の通所率となった。長期休みの利用者3名（入院1名、自宅療養2名）については利用再開のめどはたっていない。

② やりがいを感じる作業の実施

作業等を通じて集中力や持続力を身につけるとともに、自己肯定感を得られるように支援する。

（達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など）

【成果と課題】

全般的には日々の作業の継続により集中力や持続力は身についており、概ね安定して作業が行えているが、周期的に気持ちが不安定になることや、体調の悪化により、意欲や集中力が低下しがちな利用者も少なくない。その都度話を聞くことや、静養を促すこと等で対応し、個々の状況に応じて作業が継続できた。また、施設外実習には多くの利用者が意欲を示しており、年間で実20名延べ62名の利用者が参加した。

これまで行ってきた作業開始や休憩の号令係、朝礼等の進行の他、今年度からラジオ体操や弁当注文のファイルの準備、金曜日のおやつ配布、作業の席の発表等、利用者の役割を徐々に増やしている。役割を持つことで意欲の向上や自信につながっていると感じる。年度開始前に朝礼係は4名が担当していたが、2月に新たに2名の立候補があり、年度末は6名が行っている。また、やってみたいという気持ちはあっても、立候補することには抵抗感がある利用者もいるのではないかと考え、作業の席の発表に関しては担当を決めずに、その都度職員が依頼するようにしたところ、多くの利用者が行うことができた。

③ 社会人、職業人としての成長の支援

作業や活動を通じて、社会性、協調性、ルールの順守等の必要性を伝えていく。

精神的不安定さや行動特性により、大きな声や衝動的な行動、多動などが見られる場面もあるが、お互いの特性理解や職員への相談により、利用者間の大きなトラブルに発展することはなかった。集団生活のルールは概ね守られている。

④ 工賃

作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

【成果と課題】

昨年度比で作業収入が40万円増額、月額平均工賃も541円増額の26,679円となり、7年度の報酬ランクは2万5千円を維持できた。7年4月から不動産業者紹介の清掃作業の工賃の改定アップのほか、6年度末に児童公園清掃箇所が1か所増えたことで、7年度の清掃作業収入は35万円程度増額の見込みである。

	令和5年度 実績	令和6年度 目標	令和6年度 実績
月給	26,138 円	27,000 円	26,679 円
最高月給	32,700 円	33,000 円	49,740 円

(2) 利用者の健康促進・保持のための支援

健康診断、感染症予防、面談等による心の健康管理、日常の観察等による異変の早期発見の他、医療機関や家族との情報共有を図ることで、利用者一人ひとりの健康の促進、保持に努める。

【成果と課題】

消毒、検温、換気、マスクの着用等の基本的な感染予防策を実施し、事業所内での感染症の拡

大はなかった。各利用者の服薬状況や主治医の意見などについて本人や家庭に情報提供を求め、健康状態の把握に努めたほか、必要に応じて心身の状態など家庭に情報提供を行った。また、6月に利用者健康診断を実施し、23名の利用者が受診した。

(3) 一般就労へ向けた就労移行支援事業の利用支援

一般就労を希望する利用者に対し、就労移行支援事業所と連携のうえ、就業能力の評価を行うと共に、移行支援事業の体験実習などを通じて、就労移行支援事業所の利用に向けた支援を行う。

【成果と課題】

1月に就労移行支援の体験実習を1名が行い、次年度の就労移行支援利用に向けて準備を進めている。他に1名が数年以内の一般就労を希望しており、7年度4月から5月にかけてこの2名が就労移行支援の体験実習を行う予定である。その他に将来的に一般就労を希望している利用者はいるが、気持ちの安定化や体力面で課題が残っている方が多く、具体的に準備を進めたいという希望はなかった。

2) 人材育成

(1) 職員の連携強化（情報共有・相互補完など）

(2) 中核職員の育成

①利用者支援スキルの向上

②事業管理に必要な事務の知識向上

【成果と課題】

(1) 職員の情報共有は概ねスムーズに行われており、連携協働体制はよく取れている。ただし、内部牽制が不十分、また合意形成等における現場リーダーの不在が課題であり、重要な事項への対応が疎かになる、迅速さを欠く等の場面が見られた。

(2) 7月に中心的役割を担っていた2名の常勤職員が退職したが、後任の新規職員2名の育成も順調に進んでおり、作業活動では大きな混乱は見られなかった。ただし、利用者の特性把握や個別支援計画に基づいた支援の実施など支援スキルの向上にはまだ時間を要するとみている。退職者の内1名は主任であったことから、一時的に指揮命令系統の混乱が見られたが、数か月で改善した。現場で職員の指導や合意形成を適切に行えるリーダーの育成が重要な課題となっている。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

①1日平均利用者20人を目標とする。

(令和5年度実績—平均利用者20.3人。26人在籍、通所率75.9%)

②利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。

③就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

【成果と課題】

① 1日平均利用者数は20.13人（28名在籍、通所率73.0%）となり、昨年度を0.9人上回った。（令和5年度実績19.21人、通所率72.7%）。有資格職員の減少により加算の減額はあったが、利用実績の増加とともに、6年度報酬改定で職員配置に比例した報酬ランクが増設されたことで、給付費収入は約4,648万円となり昨年度の約4,078万円と比較し約570万円増額となった。

② <令和6年度実績>

見学者 12名

(支援機関紹介4名、特別支援学校等進路相談5名、本人家族から連絡)

内実習者 4名 (支援機関紹介3名、学校進路学習1名)

- 内利用契約者 1名
③ 就労移行支援事業の期限超過者からの利用相談はなかった。

(2) コスト削減
節電節水に取り組む他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

【成果と課題】

使用していない場所の電気やエアコンの消し忘れ等が散見されており、コスト削減の意識の不徹底が見られた。備品購入に関しては伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられた。

(3) 計画的な予算執行
月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧を実施し、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有
毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できている。

9 その他の成果と課題

なし。

10 事故等報告

なし。

11 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前8時45分～午後5時
(3) 年間延開所日数 243日間 (前年度 243日)
(4) 平均活動時間 8時間15分

12 利用状況

- 1) 利用者延人数 4,892人 (前年度4,668人)
2) 1日平均利用人数 20.1人 (前年度19.2人)
3) 施設外就労等実人数 20人 (前年度19人)
4) 施設外就労等延人数 62人 (前年度67人)
5) 体験実習受入実人数 4人 (前年度5人)
6) 体験実習受入延人数 15人 (前年度39人)
7) 1日平均実習受入人数 0.06人 (前年度0.16人)

13 利用者状況 (令和7年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	2名
20歳以上30歳未満	7名
30歳以上40歳未満	8名
40歳以上50歳未満	5名
50歳以上60歳未満	5名
60歳以上	1名

2) 障害の状況

手帳不所持	1名
愛の手帳3度	6名
愛の手帳4度	8名
身体障害者手帳1級	1名
身体障害者手帳3級	3名（内精神手帳所持 1名）
精神保健手帳2級	10名（内身障手帳所持 1名）

1.4 環境の整備

定期的に室内清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。しかし、建物周辺の清掃についてはやや徹底さが欠けていた。

1.5 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に参加した。